

令和3年度「清流の国ぎふ」づくり

自然共生工法写真コンテスト

応募作品

No. 1

）

No.12

主催 岐阜県自然共生工法研究会
共催 岐阜県





「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	中津川の夏
撮影場所	中津川市中津川（中津川）
撮影日	令和3年7月29日
応募者コメント	この写真は、5年ほど前に施工した床固め工です。コンクリートの摩耗を防ぐゴムの素材も苔が付いて自然な感じになりました。天端に現地の石を配置し、耐摩耗はもちろん、魚道や自然景観の回復効果もみられます。

<審査委員とりまとめコメント>

背景の緑に澄み切った水と石礫河床が映える構図のよいダイナミックな景観写真となっています。2段の床止めを流れ下る水流が剥離していたり白濁していたりして、魚類の遡上は困難にも思えますが、中津川という土砂流出の多い急流河川に、現地石を使用して穏やかで安定した流れを創り出しており、河川景観や自然環境への配慮が感じられます。



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	八重桜咲く羽根谷
撮影場所	海津市南濃町奥条
撮影日	令和3年4月11日
応募者コメント	海津市にある羽根谷だんだん公園は、八重桜が 1000 本あり、また、ソメイヨシノも 800 本程ある桜の名所です。羽根谷には明治時代にオランダ人技師の指導で造られた巨石堰堤をはじめいくつかの堰堤が造られており、長い時を経て人工的に造られた堰堤が周りの自然に調和するような石積の形に変化し綺麗な景観になっています。

<審査委員とりまとめコメント>

土砂流出の激しかったかつての荒廃溪流がデ・レーケ以来の長年にわたる砂防施設の整備によって落ち着き、桜の植樹と相まって高い親水性を持つに至り、訪れる人びとを魅了しています。自然石の堰堤と満開の桜とが周辺の緑の景観にマッチした美しい写真で、上流に歴史的巨石堰堤が見え、野生動植物の影が感じられますとさらに素晴らしくなったと思います。

③

H22完成直後



R3 完成後11年経過



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	保安林地域の環境保全施工
撮影場所	下呂市馬瀬（一之谷）
撮影日	令和3年4月20日
応募者コメント	森林の環境保全機能を高めるため、従来種緑化と自然緑化を目的とした工法の一つで土留は鋼製枠を使用し、法面は植生マットと植木は「かや」を植え今日までに緑化が進んでいるのが伺えると思います。治山の崩壊による土砂流出を防ぎ、魚類(岩魚)が生息する溪流を荒らさない工法として施工しました。
<審査委員とりまとめコメント> 鋼製土留め工が必ずしも景観に馴染んでいるとは言い難く、また、緑豊かな時季の撮影ではないために写真の見た目にさほどの美しさはありませんが、植生マットと植樹による工法の効果で法面の緑化の回復が目的通りに進んでいる好事例の写真です。土留め工前の石礫床に溪流環境への配慮がうかがわれ、植樹の力やの生長も含めた今後の変化に興味を湧きます。	



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	地元に愛される自噴水
撮影場所	岐阜県大垣市加賀野（加賀野八幡神社）
撮影日	令和2年8月24日
応募者コメント	環境省の「平成の名水百選」に選ばれた自噴水で、流出先の清流には放流したハリヨが育っています。石を基調とした外観は周囲と調和して美しい空間を形成し、地元の定期的清掃活動により水環境が保全されています。

<審査委員とりまとめコメント>

地元は元より、知る人ぞ知る、歴史ある加賀野八幡神社の自噴井で、木立に囲まれた石組みを基調とする落ち着いた空間と途切れない湧水は、低水温で清澄な水が不可欠のハリヨの保全にも役立っており、自然豊かな揖斐川流域がもたらす水の恵みを感じさせます。地元の方々による水環境の保全を表現した写真で、手前の柄杓の数に日頃の利用の様子が感じられます。



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	春のそよ風を受けて
撮影場所	岐阜県岐阜市司町（ぎふメディアコスモス）
撮影日	令和3年5月25日
応募者コメント	木陰が陽光をやわらげ、春のそよ風が吹き抜けています。 木陰は開放感があり、心地良い空間となっています。 新緑は美しく、ウッドデッキは地面を保護するとともに人々に木陰の 憩いの場を提供しています。

<審査委員とりまとめコメント>

最近の都市公園の一角の情景なのでもう少し賑わいがあってもよく、陽光を感じさせる木漏れ日も欲しい一方、木の葉と雑草が強調され過ぎの感もありますが、人工物ながら曲線的な机や椅子の配置が安らぎ感を醸した緑とそよ風を感じさせる心地よい写真です。ウッドデッキによる雨水流出の抑制、あるいは、生態系におけるコリドーといった特長があれば言及頂きたかったところです。



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	茶畑でマチュピチュ気分
撮影場所	岐阜県揖斐郡揖斐川町春日(旧春日村)
撮影日	平成21年6月21日
応募者コメント	2009年頃に茶畑の圧倒的景観に感動し、ボランティア活動の一環としてエコカフェ、エコツアー、茶畑の市民オーナー制度を展開しました。covid19直前にも再訪しましたが、いつの間にか岐阜のマチュピチュなどと呼ばれ有名になっていました。以前の写真の方が出来が良かったので、それを応募します。景色は変わっていません。

<審査委員とりまとめコメント>

地域の自然に適した特産揖斐茶栽培のために、地形に合わせて一段一段丁寧に積み重ねて作られた茶畑は先人達の苦勞の結晶であり、背後の山の緑と人工のお茶の緑との調和は岐阜のマチュピチュと呼ばれるに相応しい景観を創り出しています。写真は、人びとの営みで保全されてきた景観を地域おこしの核として地域の特長に新たな価値を生み出した情景を表しています。



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	自然環境と治水の共生
撮影場所	五六川（瑞穂市）
撮影日	令和3年8月18日
応募者コメント	「貝原棚田」は旧春日村の山あい広がる3.5haの農地で、「ぎふ棚田21選」にも選定されています。美しい景観、様々な動植物が息づく農地であり、水源涵養や洪水防止の役割も果たす貴重な地域資源として、「貝原棚田保存会」により保全管理されています。

<審査委員とりまとめコメント>

条里制ゆかりの地名のある上流域では直線的な五六川も、低平地の中下流域では著しく蛇行していたことが地区境界から推察され、この蛇行帯を包絡する広い河川敷を持つ区間が犀川合流点近くまで延びて高い遊水機能を備えています。カルガモやJR橋梁などが写り込んでいれば、流れの強弱も見られて洪水時の状態をより実感できたのではないかとと思われる写真で少し残念です。



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	道の駅 清流白川クオーレの里
撮影場所	加茂郡白川町（白川）
撮影日	令和3年8月22日
応募者コメント	道の駅 清流白川クオーレの里では隣接する白川に渓流が整備されています。いまはコロナ過でさびしいけれど、子供から大人まで川で楽しむ姿が目に見えます。

＜審査委員とりまとめコメント＞
 山間を蛇行する河川に沿って、道路ばかりでなく微高地を親水性に優れた護岸整備等で護り、地域おこしの拠点にするような河川改修によって岐阜県の代表的景観である道の駅からの清流へのアクセスが整備されています。アングルが秀逸で、渓流で自然とふれ合いながら学べる場としてCOVID-19の下、まるで川が子供たちを待ちわびているかのとき写真です。



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	津保川
撮影場所	関市稲口（津保川）
撮影日	令和3年8月22日
応募者コメント	通りすがりの堤防道路にて、定期的に草刈りを行っているのか、河岸から水際まで、草地となっており、人工物もなく自然豊かな河川が印象に残りました。

<審査委員とりまとめコメント>

白雲を浮かべた青空と濃緑の山々を背後に明るい河岸法面の緑と水面の青。対比があって付近を散歩したくなるような、地域の自然に合致した河川整備の生み出した良好な景観の写真で、バランス良く解放感に満ち溢れていて心が和まされます。ただ、奥にはブロックも手当てされ、自然共生として何をしたのか、これでよいのかなど意図の伝わってきづらい恨みは残ります。



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	自然共生認定工法その1
撮影場所	瑞浪市稲津町小里（小里川）
撮影日	令和3年8月22日
応募者コメント	根固めブロックの上部に石を配置し、自然景観配慮がなされていた。その下流には、自然共生認定工法である「キョーワ式フィルターユニット工法」が根固めブロックと護岸との間の自然環境の創出を目的に、平成17年度に施工されている。 一部洗堀によりなくなっているが、植生の回復が図られている。

<審査委員とりまとめコメント>

小里川ダム下流に多数設置されている床止め工の一つで、急流河道という制約の下、植石によって単調な流れにならない配慮がなされていますが、河岸や水際での植生の回復や魚の遡上には厳しい剥離や白濁の緩和など、より自然に近い姿を目指したさらなる工夫が望まれます。旧認定工法のキョーワ式フィルターユニットの施工箇所も見やすければと思います。



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	自然共生認定工法その2
撮影場所	高山市国府町（宮川）
撮影日	令和3年8月8日
応募者コメント	平成17年度に自然共生認定工法である「緑化連節ブロック工法（アコール）」が施工された箇所である。植生の回復が目的であったが、ねらいどおりの植生の回復が図られている。

＜審査委員とりまとめコメント＞

H16災の復旧工事としてこの約600m区間両岸水際に施工された、旧認定工法の緑化連節ブロック工法（アコール）によって、河岸法先までが草本植生で覆われてブロックが存在しないかのような植生の回復は意図通りの見事な成果です。写真は、自然共生の様子を良く伝えていて、青空と白雲、緑の山々と木々、河川の水面に河原と、撮影時期、アングル、色彩のいずれにも優れています。



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	自然共生認定工法その3
撮影場所	岐阜市山県岩地（石田川）
撮影日	令和3年8月21日
応募者コメント	平成17年度に自然共生認定工法である「グリーンストーンによる水際植生工法」が施工された箇所である。こう配が急な護岸にもかかわらず、狙い通りの良好な自然環境の復元できている。

＜審査委員とりまとめコメント＞

H16災時に河岸崩落が目立った石田川に復旧工事として施工された旧認定工法のグリーンストーンによる水際植生工法の十数年後の姿で、河床に寄り洲や顕著な瀬淵はないものの、沈水植物は水面の表情を豊かにしています。こう配の急な護岸法面には植生が目立ち水際には陰も見られて、当初の期待通りかつての土羽河岸にかなり近い状態になったことのわかる写真です。